

## ネパール中西部大学の意欲的コロナ対策(2)

### 1. 中西部大学のコロナ対策

MWU のホームページを開くと、臨時の [COVID-19 情報ページ](#) に自動的に移動する。ここには、学生や地域住民にとって必要なコロナ関係情報が要領よく表示され、その下方に、大学が実施してきた緊急対策が文章、画像、動画で分かりやすく紹介されている。

- ・学長メッセージ
- ・コロナ関係広報／連絡先
- ・コロナ対策啓蒙ポスター／動画
- ・大学製造消毒液の無料配布
- ・教職員・学生のコロナ対策ボランティア募集
- ・自宅 E ラーニングの解説(文章／動画)

The screenshot shows the COVID-19 information page on the MWU website. At the top, there is a header in Nepali: "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥". Below this is a section titled "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥" with a sub-heading "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥". To the right of this section is a "COVID-19 Update" table with columns for "Total", "Confirmed", "Recovered", and "Deaths". The table shows the following data:

Total	Confirmed	Recovered	Deaths
2,844	276	258	18

Below the table is a section titled "Facts, Programs and Awareness Messages" with a grid of 12 items, each with a thumbnail image and a brief description in Nepali. The items include: "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥", "समाधानी अचाना आई, अझै पनि बाँची, असावधानी पनि बन्दो आँ ॥".

At the bottom right of the screenshot, there is a link: [■ कोरोना情報トップ](#)

### 2. 消毒液製造・配布と産学協同への展望

ここで注目すべきは、第一に、大学が自ら学生・教職員ボランティアを募集し、協力して消毒液を製造

配布していること。製造は科学技術学部実験室で行われ、とりあえずボトル1千本余が地域の貧困住民や防疫関係者らに配布された。配布にあたっては、NB・シン学長が率先して現地に出向き、学内ボランティアと協力して消毒液を配り使用方法を説明した。

この消毒液の製造・配布が、直接的にはコロナ感染防止のための緊急措置であることはいまでもないが、学長によれば、これは単にそれだけにとどまるものではない。

NB・シン学長は、こう説明している。これからの大学は、卒業証書授与に安住するのではなく、真に有能な自立的人材の育成を目標としなければならない。その第一歩として、消毒液などコロナ感染予防用品の製造配布を行っている。大学製消毒液はISO基準を満たしており、市場出荷も可能だ。この事業をきっかけとして、大学は産学協力を推進し、学生には産業と具体的に関係づけ大学での学習をせよ。大学は、中央省庁とも連携を強め、地域経済発展のための基盤となることを目指している。

## सेनिटाइजर बोकेर झुपडीमा उपकुलपति



■大学製消毒液の配布 ([Nepalgatha, Apr 13](#))

谷川昌幸(C)

2020/04/30 at 15:03

カテゴリー: [経済](#), [健康](#), [教育](#)

Tagged with [コロナ](#), [Covid-19](#), [産学協力](#), [開発](#), [中西部](#)

## ネパール中西部大学の意欲的コロナ対策(1)

ネパールの中西部大学([Mid-Western University \[MWU または MU\]](#))が、意欲的な新型コロナ(コビド19)対策に取り組んでいる。

MWU は2010年再編新設の国立大学で、本部はカルナリ州スルケットにあり、学生は約3千人。教育学系、理工学系、人文社会系、商学系、法学系のコースはあるが、医学部はない。

MWU のあるカルナリ州は、ネパールでも最も低開発の中西部地方に位置し、教育も普及していない。中西部のHDI(人間開発指数)は0.548(2017年)、識字率は43.71%(2001年)。

MWU は、その中西部カルナリ州の中規模新設大学だが、3月初旬着任のナンダ・B・シン学長(VC)の強力なイニシアチブの下、いち早く緊急のコロナ対策に着手する一方、それを一時的事業にとどめず、大学と地域社会の総合的開発の重要な契機ととらえ、その観点から事業を継承発展させようとしており、たいへん注目される。

【参照】[「中西部大学」学長に TU 教授指名](#) [コロナ禍のネパール](#)



■MWU HP, Top(Apr 30)

谷川昌幸(C)

2020/04/30 at 11:31

カテゴリー: [教育](#), [文化](#)

Tagged with [グローバル化](#), [コロナ](#), [産学協力](#), [e-learning](#), [Mid-Western University](#), [情報化](#), [感染症](#), [中西部](#)

## コロナ禍のネパール

ネパールでの新型コロナ(コビド19)感染は、いまのところ日本よりもはるかに少ない。

[月日／感染者累計／死者累計]

1月24日／01／00

3月23日／02／00

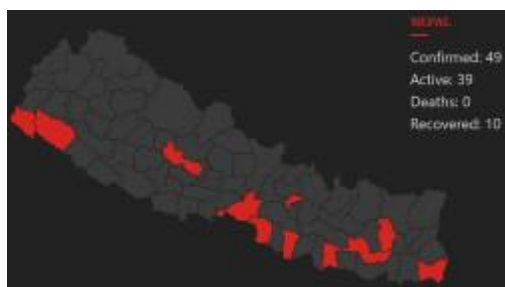
4月06日／09／00

4月14日／16／00

4月17日／28／00

4月21日／31／00

4月24日／49／00



■Covid-19 Update, Kathmandu Post, Apr 25

それでもネパール政府は強く警戒し、2人目の感染が確認された3月23日にはいち早くロックダウン（全土封鎖）に踏み切った。官庁、商店等は閉じられ、人々の外出は治療や生活必需品購入など、必要な場合のみに制限された。空陸の交通機関も原則休止。このロックダウンは2度更新され、現在も継続されている（当面4月27日までの予定）。

この厳しいロックダウンが始まると、村外へ出稼ぎに出ていた多くの人々が職を失い窮地に陥ることになった。村に帰ろうとしても、国内交通は遮断されている。あるいは同様にロックダウンのインドから帰国しようとしても、国境で止められてしまう。

外国人旅行者も各地で足止めされた。たとえカトマンズまで戻れても、定期便は運休なので、各国政府等が用意した帰国特別便に乗るしかない。それでも乗れば幸い、カトマンズには帰国を待つ旅行者がまだかなり残っているという。

ネパールが感染者2人の段階で、いち早くロックダウンに踏み切ったのは、なぜか？

▼SB・pun博士 (Dr Sher Bahadur Pun, テク病院[Shukraraj Tropical and Infectious Diseases Hospital] 医師, 専門: ウィルス学・流行疫学)

「たとえ感染が一人だけであっても、そして症状があろうがなかろうが、村中にパンデミック[感染爆発]を引き起こす危険性は 크다。村には十分な診療施設がないし、村人たちはたとえ少しの熱が出ただけでも医者にかかる必要があるなどということは知ってはいない。……もしコロナウイルスを国境で阻止せず国内に入れてしまえば、われわれは時限爆弾を抱え込むことになってしまうだろう。」(\*7)

「政府は対策を考えてはいるが、実際には、どの国の政府の対策もいまのところこのウイルスにたいして完璧ではない。われわれとしては、このウイルスを見逃すことなく補足し封じ込めるべきであり、そうすることによってのみ最悪の事態への備えができるのである。」(\*8)



▼ブラビン・カルキ (ジャーナリスト, Mero Tribune 社主)

「ネパール医療の現状は、西洋に比べ非常に貧弱だ。もし感染が急拡大すれば、この国の医療体制では対応できなくなるだろう。ネパールは、この破壊的なウイルスを封じ込めるための対策を強化している。もし移動禁止がもう少し早く発令されていたら、ウィルス拡散防止にはより有効であったらという見方もある。政府は、手遅れとなる前に、このヒマラヤの国で起こりうる感染爆発を阻止するため、さら

に対策を強化していくべきである。』(\*10)



■ B. Karki(FB, Mar 10)

このように、ネパールでは感染症専門家や有識者の間では、コロナ・パンデミックへの警戒心が極めて強いが、それでも全土封鎖ロックダウンともなると、とりわけ経済的には大きな犠牲を伴う強硬措置であり、抵抗や反対も少なくはなかった。

#### ▼ネパール観光年(VNY2020 [Visit Nepal Year 2020])

たとえば、外国人観光客を呼び込むための「ネパール観光年(VNY2020)」の大キャンペーン。東京オリンピックが日本のコロナ対策の遅れを招いたと批判されているように、ネパールでも VNY2020 がコロナ対策の初動を遅らせたと批判されている。

ネパールではすでに1月24日、国内初のコロナ感染が確認されていた。ところが、それにもかかわらずネパール観光局(NTB)は2月26日、ネパールにはコロナ感染はないので、旅行キャンセルの必要はないと発表した。これを批判されると、ようやく3月1日になって観光局は3月の外国人向け VNY キャンペーンの休止を発表した。

ネパール政府が VNY2020 そのものの中止を決定したのは、全土ロックダウン決定(発表3月23日)とほぼ同じころ、おそらく両者セットだったのであろう。VNY2020 事務局の解散も、ロックダウンの4月27日までの延長(4月14日発表)とセットであった。

観光はネパールの基幹産業であり、VNY2020 は官民挙げての大事業。それへの大きな期待が、このようにコロナ対策の始動を一時躊躇させたことは確かなようだが、危機が切迫するとネパールは一転、徹底した全土ロックダウンに踏み切り、VNY2020 もきっぱり断念してしまった。中途半端な外出自粛要請の「非常事態宣言」にとどまり、オリンピック中止も決断できない日本とは対照的である。



■ VNY2020 ロゴ / Visit Nepal FB(ロゴ変更

後)

## ▼SB・ブン博士の査問

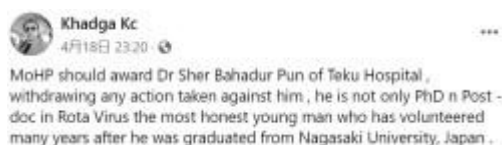
といっても、むろんコロナ対策のような重大な政策については、どの国でも利害が錯綜し、様々な人々が様々な分野やレベルで反目や主導権争いをする。アメリカのトランプ大統領とクオモ NY 知事、日本の安倍首相と小池東京都知事、等々。ネパールでは、もっとも大きく報じられたのは保健省と SB・ブン博士の対立。

ブン博士は、前述のようにウィルス学・熱帯医学が専門で、勤務先は熱帯感染症の基幹病院であるテク病院(1933 年開設)。そのブン博士のところに、コロナ感染が拡大し始めると、当然ながら多くのメディアが押し掛け、博士の見解を求めた。博士は、コロナ感染拡大を恐れ、積極的に取材を受け入れ、繰り返しコロナ感染につき説明し、早期対策の必要性を力説した。

ところが、これがネパール保健省やテク病院の一部幹部の怒りを買ったらしい。4月12日、保健省はブン博士に召喚状を送り、コロナ関係情報を不正に漏らした疑いで事情聴取することにした。博士の懲戒解雇もうわさされた。

この保健省によるブン博士召喚問題については、コロナ感染の世界的急拡大ということもあってか、ブン博士の方を支持する声が高まり、結局、博士の責任は問われないことになった。

ブン博士は4月19日、保健省を訪れ、幹部と会見したのち、プレスリリースを出し、保健省や保健大臣の名誉を傷つけるような報道はすべきではないと要請した。また、保健省訪問も通常業務の一環にすぎないと説明した。これに対し、保健省筋の方も、メディアが騒ぎ立てただけで、実際にはブン博士は保健省の協力を求めたにすぎない、と語った。



■ブン博士支持表明(Prof. Khadga KC, FB, Apr 18)

## ▼難しい選択

こうして VNY2020 問題もブン博士問題も大事になる前に落ち着いたが、コロナ感染はネパールでも急拡大し始めた。4月24日現在、感染者累計49人。

ネパールでは、平均年齢が先進諸国よりもはるかに若いので、コロナに感染しても相対的には重症化率は低いであろうが、ブン博士らが警告しているように住民の医学知識不足や地域医療体制不備を考えると、厳しいロックダウンの継続はやむをえないであろう。むろん、全土ロックダウンは、ダメージの方が耐えがたいほど大きく、可能な部分から緩和していくべきだという意見も根強いのだが。――難しい

選択である。



■ 中西部大学のコロナ対策 ([同大 FB, Apr 18](#))

- \*1 Dr Sher Bahadur Pun, “Novel coronavirus scare: Boost surveillance at TIA,” Himalayan Times, January 27, 2020
- \*2 Arpana Adhikari, “ Suspect flu? Visit the doctor,” Rising Nepal, Jan. 29, 2020
- \*3 Kashish Das Shrestha, “Let’s call off Visit Nepal Year 2020; The Covid-19 outbreak provides a safe exit for Nepal to end this poorly-prepared campaign,” Nepali Times, February 28, 2020
- \*4 Kunga Hyolmo, “Govt suspends Visit Nepal Year 2020 promotion campaign in foreign countries for time being owing to coronavirus outbreak,” Republica, February 29, 2020
- \*5 “Weakly enforced quarantine protocols spell trouble,” The Record, March 27, 2020
- \*6 Manjima Dhakal, “Fewer Patients Visit Fever Clinics For Corona Testing,” Rising Nepal, 28 Mar 2020
- \*7 Mukesh Pokhrel and Sonia Awale, “Returnees may be taking coronavirus to rural Nepal; With inadequate medical facilities and influx of people, western Nepal could be the next hotspot,” nepali Times, March 31, 2020
- \*8 Arun Budhathoki, “Nepal May Escape the Coronavirus but Not the Crash; The remote mountain country has only five confirmed coronavirus cases,” Foreign Policy, March 31, 2020,
- \*9 “COVID-19 Threat: Nepal Government Cancels ‘Visit Nepal 2020’; The government has also decided to dissolve VNY Secretariat from April 13, 2020,” Nepali Sansar, 1 Apr 2020
- \*10 Brabim Karki, “Nepal Extends Ongoing Lockdown to Combat COVID-19, Nepal’s poor stand to be hard hit by the freeze on economic activity,” The Diplomat, April 07, 2020
- \*11 Anil Giri, “Coronavirus lockdown to continue until April 27, border closed until situation improves in India,” Kathmandu Post, April 14
- \*12 “Dr Sher Bahadur Pun leaked vital information: Health Ministry,” Republica, April 18, 2020

\*13 “When Dr Pun became the face in media, others at Teku Hospital were not happy,”  
Republica, April 18, 2020

\*14 Arjun Poudel, “A day after Covid-19 cases double, Health Ministry goes after  
frontline doctor for critical comments, The ministry has summoned Dr Sher Bahadur Pun,  
a virologist at the Sukraraj Hospital, for a clarification over his public statements on the  
Covid-19 pandemic,” Kathmandu Post, April 18, 2020

\*15 Vivek Rai, “Health Ministry seeks explanation from infectious disease expert at Teku  
Dr Pun, Some have not liked that I am seen at the forefront: Dr Pun,” Kathmandu Post,  
April 18, 2020

\*16 “Ministry urges everyone against misleading publicity on Dr Pun,” Merolagani, Apr  
19, 2020

\*17 “People urged not to indulge in smear campaign,” Himalayan Times, April 20, 2020

谷川昌幸(C)

2020/04/25 at 17:16

カテゴリー: [社会](#), [健康](#)

Tagged with [ロックダウン](#), [Corona](#), [Covid-19](#), [感染症](#)